

環境に配慮した塗料製造で地域社会との共生を目指す

オキツモ株式会社 三重県名張市

オキツモ株式会社は、三重県名張市に本社を置く塗料メーカーで、暖房機器やキッチン用品に塗装する耐熱塗料や、熱放射損失を抑えて太陽光を効率よく熱エネルギーに変換できるソーラーペイント等、様々な機能を持った塗料やコーティング剤を手掛けている。

2023年3月時点、同社の特許登録件数は国内で70件、海外でも45件と多くの知的財産を保有しており、国内外を問わず業界内でひときわ存在感を放っている。

創業以来これまで培ってきた機能性コーティングの技術、システム、ソリューションの数々は、同社に集った多くの人材による不断の努力の成果であり、驚きと感動のモノづくり精神は現在も脈々と受け継がれている。同社はこれからもオリジナリティーあふれる革新的な商品とサービスで、世界から称賛されるユニークな企業を目指し続ける。

会社概要



会社名：オキツモ株式会社
所在地：三重県名張市蔵持町芝出 1109-7
電話：0595-63-9095
FAX：0595-63-9063
設立：1945（昭和20）年3月
代表者：代表取締役社長 山中 重治
資本金：9,981万円
従業員：138名
事業内容：耐熱塗料、フッ素樹脂塗料、機能性コーティング剤の製造販売
URL：<https://www.okitsumo.co.jp/>



本社社屋の外観

耐熱塗料「おきつも」の開発と成長

オキツモ株式会社は、1945年にラッカー塗料の製造業として設立した大亜精工株式会社を前身とし、現在は4代目社長の山中重治氏が率いる塗料メーカーである。社名は、古くから名張の枕詞とされている「^{おきつも}沖津藻」を由来としており、地域社会と共に発展していきたいという思いが込められている。

設立当時は、名張が関西圏や中京圏からも一定の距離があるという地理的不利もあり、競合他社に後れを取ることもあったが、高付加価値商品で未開拓市場に参入していく方針を打ち出し、地道に研究開発を進めた。そこで誕生したのが、現在でも同社の主力商品となっている耐熱塗料「おきつも」である。自動車産業の伸長等による耐熱塗料の需要拡大といった外部環境の後押しもあり、市場の先駆けとして優位性を保っていた「おきつも」の販売は順調に伸び、今では耐熱塗料の分野において、同社は国内シェア No.1 を誇っている。

また、同社は海外7か所（6か国）に現地法人を擁し、世界的にも一定のシェアを獲得しており、2014年には、世界市場のニッチ分野で勝ち抜いている企業などを選出する「グローバルニッチトップ企業100選」に経済産業省から選出されている。2017年には、地域の特性を生かして高い付加価値を創出し、地域の経済成長を力強く牽引する「地域未来牽引企業」の選定を受けるなど、同社の国内外の活動は非常に高い評価を受けている。



耐熱塗料「おきつも」缶（左）と塗料の製造工程の一部（右）

顧客ニーズに丁寧に応える技術力

同社の強みは、細かいカスタマイズを可能とする商品開発力にある。機能性を前面に出した「おきつも」の開発から半世紀以上が経過し、積み重ねたノウハウと大手メーカーにはない小回りのきく対応力によって、顧客の求める機能を商品化している。

このように顧客の求める機能から商品を開発していくため、営業担当者は既存の汎用品を販売するのではなく、自社の技術面等を考慮した上で提案型の営業をする必要があり、能動的に仕事に取り組んだという実感からやりがいも生まれている。技術力の高さが営業担当者のやりがいにつながり、営業担当者が抱んだ顧客の課題等の情報発掘が更なる技術力の向上につながるという相乗効果を生んでいる。

こうして抱んだ顧客のニーズに丁寧に対応していくことで、屋外で雨風にさらされても数年間は消えない耐候性に優れたマーカーや、沸騰している液体の中にあっても 15,000 時間以上耐食性を維持できる塗料など、様々な用途に沿った商品を世の中に送り出し続けている。



同社の商品開発力を支える分析技術（左）
耐候性に優れたマーカー「消えま線」（右）



地域社会との共存共栄を目指して

同社は塗料メーカーとして、危険物の取扱い等、環境問題と密接に関わっていることから、太陽光発電設備の導入に加え、廃材等の再エネルギー化や廃金属の再利用などによる廃棄物の排出量削減等、環境に配慮することを心掛けている。同社では、太陽光発電で削減できた温室効果ガス排出量をパネルで可視化するなど、環境問題に対する社員の意識向上にも取り組んでいる。

環境への配慮は同社の商品開発にも表れている。太陽光の放射率を抑えるコーティング剤を利用することで、太陽光を効率良く熱エネルギーに変換することができ、高温になる工場設備には断熱塗料を使用することで、設備からの熱放出を抑え、CO₂やエネルギー費の削減に貢献している。また、製造する塗料に使用する溶媒を油性から水性にすることで、製造工程内での環境負荷をも軽減させている。



様々な商品を生み出す同社工場

同社は地域社会との共存を大切にしており、災害等の緊急事態発生に備えて社用車の PHEV を緊急用電源として提供する協定を名張市と締結しているほか、ショールーム「Okini」において、塗料の機能性を体感してもらう地域学習を開催し、子供たちの知的好奇心を刺激する活動にも取り組んでいる。



ショールーム「Okini」の外観（左）と内部（右）

今後のビジョンとして、国内市場では機能性を追求した製品の開発、海外市場では耐熱塗料需要の更なる開拓を推し進め、事業増強を図る思いを強く持っている。山中氏が社長に就任した当時、目標に掲げた世界売上 100 億円の達成に向け、同社はこれからも挑戦を続けていく。

（藤岡奨太、大橋 徹）